

株式会社 Kamogawa (京都府)

復活したものづくりDNA

創業時は包丁や鎌を研ぐ砥石の卸商社として戦後の農業を支える。1970年代は機械工具の専門商社へと事業を先鋭化し、1990年代から海外へ進出。その後、顧客の細かなニーズに応えるため、再度ものづくりに挑戦。現在は機械工具の総合卸売、機械工具のリノベート業、自社ブランド製品の開発を行っている。

INTERVIEW

潜在ニーズを掘り起こしハイブリッド経営へ

専門商社として、アジアを中心に海外進出を成功させ、商圏が拡大。しかし商社という事業形態ゆえ、価格競争に巻き込まれることや、メーカーと共に戦略を考えることでエリア拡大に二の足を踏むジレンマに直面。そんな時、ベトナム支店で工具の再研磨のオーダーが多いことに気づく。外注に回していた再研磨サービスを自社で行うところから、自社ブランドの工具開発を考え始める。2013年のものづくり補助金に採択されたことをきっかけに「超硬合金金型の直彫り磨きレス加工用ダイヤモンド電着工具」を開発。商社とメーカーのハイブリッド経営が始まる。

Q 関西ものづくり新撰に応募しようと思ったきっかけは

メーカーとして技術の高さをPRしたかった

創業時から2012年まで商社一本です。そこから自社ブランド製品の製造を始めましたので、製品や技術力の高さをPRする必要性を感じておりました。「関西ものづくり新撰」では、技術を評価していただけただけでなく、その流れで展示会にも出ることができ、新製品の製造依頼を頂くなど、メーカーとしての仕事に繋がったことに感謝しております。ものづくりを始めた当初は、加工の技術者は製造チームのリーダーをしている藤原ひとり。しかも彼は営業からのコンバートで、知識

も技術もゼロの状態でした。2ヶ月くらいの研修という名目で技術職に就いてもらいましたが、結局10年以上、技術者として働いてもらっています。もちろん理由もなく彼を技術者にしたわけではなく、普段の彼との会話から、論理的に結果を積み上げていく技術者脳を持っており、営業していたことで得意先のニーズもわかっているの、適任だと考えました。選定していただいたことを考えると、その時の判断は間違っていないかのように思います。

インタビュー



取締役社長 竹谷 政利氏
製造部 ツールグループ グループリーダー 藤原 和納氏
※左から竹谷氏、藤原氏

センター内で加工出来るようになります。つまり、切削から最後の磨き工程まで短時間で加工を実現します。リピートいただいているお客様は、費用はそこまで変わらずに、品質が向上し、納期も半分ほどに圧縮できたと喜んでおられます。この「ダイヤモンド電着工具」はセラミック部材を加工する業界ではよく使われておりましたが、先端のR加工が不均一なので精度が求められる金型製造では使用できませんでした。金型製造で使用できる精度を実現するために、製造工程全てを見直し、1年半ほどかけて、先端のR精度が±0.005mmという高精度の製品を完成させました。



会社の未来を語る竹谷氏

Q 今後の展望をお聞かせください

顧客のニーズを満たす製品を開発したい

最近開発した製品で、新超硬素材WC-SiC超硬を母材にして、世界初の再電着を可能にした「アクセラモールドミル」を推していきたいですね。これは、サポインにも採択されて開発した工具ですが、昔から繋がりのある同志社大学、取引のある京セラ株式会社と共同で研究・開発しました。「関西ものづくり新撰」に選定された「ダイヤモンド電着工具」の剛性を上げ、長寿命化し、リサイク

ル可能なダイヤモンド電着工具へと昇華させたものです。この技術で、金型だけではなく、半導体製造装置向けの工具に使用するための「アクセラエンドミル」や「アクセラドリルミニ」という工具も開発しました。まずは、これらの販路を拡げていきたいです。当社が特許を申請している「超硬合金工具」と「再利用技術」で、工具の再研磨の事業にも力を入れていきたいです。

PRODUCT

新市場創出

対象製品選定年 2016年

超硬合金金型の直彫り磨きレス加工用 ダイヤモンド電着工具



超硬合金金型の直彫り磨きレスを可能とした高精度ボール形状のダイヤモンド電着工具です。従来の製法は放電加工→熟練工の磨き作業という流れでしたが、本製品を使用することにより、最後の「磨き工程」までマシニングセンターにて全て機械的に加工でき、品質の安定化、加工時間短縮が可能です。

支援機関からの推薦コメント

切削・研削加工のトータルソリューションをグローバルに提供する京都発のニッチ・トップ企業です。素材に拘り、既存の電着工具を超越した性能精度と長寿命化により金型業界に大きく貢献されています。

支援機関情報

公益財団法人京都高度技術研究所
京都市下京区中堂寺南町134番地
tel : 075-315-3625
https://www.astem.or.jp/

会社情報



株式会社 Kamogawa
取締役社長：竹谷 政利

京都市伏見区竹田中宮町78
tel : 075-605-3123 fax : 075-605-3126
https://www.kamog.co.jp/

企業 HP



製品の製造工程について説明する藤原氏